

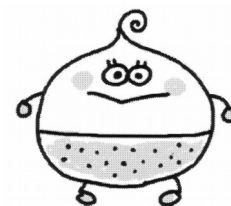
HDM推進会（第34回）／ごみゼロネット推進会（第56回）議事録

開催日： 2013年（H25年）1月30日（水）10:00～12:20

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 加藤、平林、大橋、杉本、川村、山本、桐生（作成）

議題：



1. 第20回HDM導入検討会の報告

- 市側から「今後どうするか」と投げかけてきたが、我々が「止める」というなら「はい、そうですか」と市側が言う雰囲気であった。加藤氏よりの「遺憾である」との発言に、「前は納得したはずなのに」という怪訝そうな反応があった。篠原議員が総予算が高いと反対したことを「反省している」と伝えたら、「そうですか」という納得できない顔をしていた。補正予算に計上しない理由は上からHDMは既に実証試験を要しない段階に入っているのではないかと話を受けたためという。HDM導入検討会は「方向性を確認する意味で次回もやる」という結論になった。（川村）
- 予算計上できなかった理由は市長の「HDMは実証されている」との言い分を崩せなかったことにある。我々の陳情は生きていることに市側は同意した。補正予算については「市長の話からして難しい」「事情が変わるかも知れないので、時期を待っている」「自分たちも移動になるかも知れない」との発言に止まった。（杉本）
- 「市側の見解を聞きたい」といつたら「2億円の歳入不足となった。事業に優先順位を付けざるを得なかった」「やらないという考え方はない。どう進めるか3通りの考え方がある内容省略」。自分の出した意見書には「遺憾」の言葉はあるが、どうとでもとれるところもある融通無碍な内容であった。片山、板倉議員には経過を報告した。数人の議員に打診したが、「今は各議員は3月の選挙で頭が一杯なので、報告会に出席できない」と言われた。何も出さない訳には行かないので、文書報告で全議員に経過を説明する。（加藤）
- 最近、稲葉市長と話し合う機会があったが、「日野市で共同処理して貰えるからいいではないか」と全くやる気がない状態であった。（山本）

2. 議員諸氏に出すHDM実証試験の経過報告書の内容検討

- 加藤氏がMLで流された経過報告書原案を全員で検討した。
- 加藤氏が付属資料となる時系列経緯の一覧表の各項を読み上げ、内容吟味を行った。（詳細省略）
- これら報告書は加藤氏が文書化し、市の議会担当部門から全議員に配布して貰う。

3. フリーディスカッション

- 市の今井KFはHDMの減容率2%に魅力を感じている。彼は現在のごみ処理に関する施策の数々の矛盾点に気付いており、勇気ある発言もあった。（川村）
- 小金井の農家が漸減している事情から、循環型のごみ処理には限界がある。
- 2/Eにやる次回会議では「評価方法を絞る」「幅広い検討」「熊谷清掃社の700万円は上限値で、場所が決まれば半分近くに下がる可能性有る」「生ごみの地域分散処理の運営要綱の作成」等々の意見が出された。
- その他、高木氏が出している「分別収集」陳情、ダイナックス社の報告書の問題点、1/30朝日新聞にあった稲葉市長の「ごみ問題で公約を果たしたことになるかどうかは皆さんの判断」等の話題が出て、盛り上がった会議となった。

以上

次回打合せ： 2月13日（水）10:00～12:00 コミュニティサロン・はけ

